

平成 28 年度第 2 回支援コーディネーター全国会議・シンポジウム

当事者の家族の立場から

2017 年 2 月 17 日(金)

奈良脳外傷友の会あすか 大久保康子

1、「奈良脳外傷友の会あすか」の紹介 (設立 2001 年 5 月 20 日)

正会員 34 家族 賛助会員 28 名 顧問・サポーター 52 名

活動内容 総会 年 1 回

定例会 毎月第 2 日曜日午後 1 時～5 時

あゆみの会 定例会と同時開催

研修会 随時

情報発信

奈良高次脳機能障害リハビリテーション講習会実行委員会事務局

会報発行

定例会報告の毎月送付

ホームページ

高次脳機能障害支援体制検討委員会委員

奈良障害者フォーラム(NDF)の会員

講師活動(体験談発表等)

電話相談 随時

NPO 法人日本脳外傷友の会会員

その他(高次脳機能障害を説明できる機会を活用)

2、自己紹介

当事者は息子、1997 年の交通事故(自損)で受傷、9 死に 1 生を得ました。

20 年経って今 40 歳になり、本人も本人を取り巻く状況も変わりました。

3、今後の展望

会発足から 16 年、本人も介護者も 16 歳年を取り、将来への不安が増してきています。

高次脳機能障害に特化した事業所やグループホームを考えてきましたが、現状から判断をすると実現の可能性が少ないので、今は考えていません。会員のニーズは一部あるものの、対応できるマンパワーがありません。

会活動への公的な助成は一切受けてきていません。会費とバザーの収益と寄付金で賄い、役員はもとより、支援者の皆様もほとんど手弁当のボランティア活動です。

当事者も家族も支援側も社会もまず高次脳機能障害のことを知って理解していただく、そこが活動の原点で、県内に家族会があり続けることが、後から来る人たちのためになると確信しています。

寄り添う気持ちで、その先の個々の人たちにふさわしい支援が組み立てられていくことを願っています。

命を助けていただき、その後も回復に向けて多くの方々からいただいたご恩返し
で、後から来る人たちのために何かできることをしようと、やってきました。

行政とコラボしての事業もない。ただその分歴代の担当者は、協力的ではある

人口は奈良県は、川崎市よりが同じくらい。

人口が少ないので、1カ所に集まるのは難しい。活動も奈良盆地内に納まってしまっている。高
次脳機能障害に特化しての施設は、無理である。

交通網も都会の様にはないので、車の利用が多くなり、一人での外出はし難い。

家族は、どちらかが死ぬまで当事者とは付き合わなければなりません。 元気なうちは
良いですが、

支援センターはよくやっているが、そこからつなぐ先が難しい、受け入れる病院、事業所
が増えない

講習会に来る人は結構いるのだけれど。

会活動パソコンが使える役員が少なく、閉鎖的にしているつもりはないが、
新しい人が入ってこない。

1,355,413 人	564 人	県人口前月より 564 人減少
-------------	-------	-----------------

平成 29 年 1 月 1 日現在 1,355,413 人 川崎市は 149 万人

【平成 29 年 1 月 1 日現在（概算値）】 <総人口> 1 億 2686 万人で、前年同月に比べ減
少 ▲17 万人 (▲0.13%)

ショートステイに申し込んだが、ベッドと食事と風呂は安心です。

初めての経験です。日中の過ごし方が気になりますが、